



西尾市でニホンカモシカを初確認

自然部会 執筆員 金森 正臣

二〇二三（令和五）年五月二十七日、西尾市西幡豆町で杉山時雄氏によってニホンカモシカが撮影され、初めて市内での生息が確認された。

偶蹄目ウシ科 Bovidae のカモシカ *Capricornis crispus* (Temminck, 1845) は、日本固有種として一九三四（昭和九）年に国の天然記念物に指定されている。本州、四国、九州に分布するが、北海道にはいない。足は太く短く、全身白色から灰褐色まで変化があり、長い体毛に覆われる。ウシの仲間ではシカのように角が毎年落ちるわけではなく、角は年齢とともに伸長し、13cmぐらいまでになり毎年角輪ができる。体重は45kgぐらいまで大きくなる。体の大きさは三歳ぐらいで止まる。オス・メスともに目の下に大きな臭腺があり、テリトリー内の小枝などにこすりつけてマークをし、テリトリーの境を示す。オス・メスともに単独でテリトリーを持ち、季節的な移動はしない。落葉樹林や針葉樹林で生活することが多い。スタイルが良くカモシカのように言われるのは、アフリカのカモシカの仲間である。日本のカモシカは、短足で足が太い。雪にかなり強く、泳ぐように歩くことが出来る。

戦後食料として多く捕獲され、著しく数が減少した。その後一九五五年に特別天然記念物に指定されて、保護がなされた。そのために数が増し、植林のスギやヒノキの芽が食べられる被害が出て、駆除が行われるようになった。

既刊 『資料編2 古代・中世』 残部僅少

A5判 760頁 モノクロ カラー口絵付
本文収録CD-ROM付 4000円



既刊 『資料編3 近世1』

A5判 790頁 モノクロ カラー口絵付
本文収録CD-ROMと三州幡豆郡吉良庄
西尾城之図複製(B2判)付 4000円



既刊 『通史編1 原始・古代・中世』

A5判 フルカラー 841頁
本文収録CD-ROM付 4000円



『新編西尾市史研究』

市史編さんのための調査・研究の成果を、論文・調査報告・資料紹介の形でいち早くご紹介します。

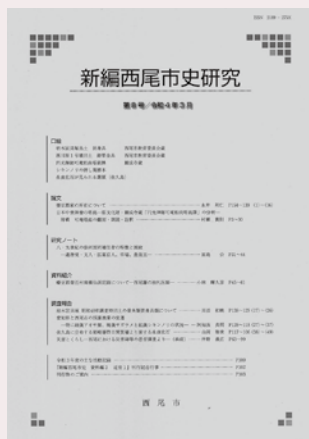
刊行予定 『新編西尾市史研究 第九号』

A4判 100頁前後 モノクロ カラー口絵付
700円

令和六年四月刊行予定

■内容

西尾地域の古代集落と土器編年／清水遺跡出土資料について―故紅村弘氏所蔵資料の紹介―／江原村手島家文書の世界―戦国期手島党の動向と尾花村・高川原村の成立―／『尾三新聞』にみる幡豆郡立農蚕学校設立をめぐる紛擾（二）／西尾茶の地場産業への発展過程について／愛知県のノリ養殖の歴史（技術開発と生産）―西尾市の状況を中心に―／佐久島の黒ボク土中の広域テフラ―佐久島に飛来した大陸起源の火山灰―（予定）



第8号表紙

既刊 第二号〜第八号

すべてA4判 モノクロ カラー口絵付
500〜700円

※各号の内容は『新編西尾市史』のホームページをご覧ください。

■頒布場所

西尾市岩瀬文庫 ※祝日を除く月曜日・第3木曜日ほか

■通信頒布

西尾市史編さん室（左記参照）までメールでお問い合わせください。

資料や情報をお待ちしています。

西尾市史編さんに役立ちそうな資料（古文書や市内で刊行された古い出版物など）がありましたら、ぜひ市史編さん室へお知らせください。

〈担当〉

西尾市教育委員会文化財課市史編さん室
〒四四五〇八四七
西尾市亀沢町四八〇 西尾市岩瀬文庫内
TEL 〇五六三―五六―八七一一
FAX 〇五六三―五六―二七八七
E-mail shishi@city.nishio.lg.jp

新編西尾市史だより第一〇号

令和6年2月15日発行

寛延二（一七四九）年十月十九日、松平備前守領駿馬村の女が西尾城丁田門へやってきて、お堀に捨子があると聞いたので見てみたい、と門番に頼み込んだ。それより先、十月九日御長屋部屋脇の内堀に捨子（の遺骸）があるというので、片付けさせた。捨子はおそらくは郭内からの捨子だろうと推測されたから、町方（三輪藤太左衛門）へ吟味を命じた。駿馬村の女は小焼野村百姓伊右衛門の下女で、懷妊して暇を遣わされ、生まれた子は伊右衛門が預かり、のちに外へ預けたという。預けた先は、西尾城下塩町理平・さん夫婦であった。

まずは小焼野村庄屋への聞き取りから吟味が始まり、塩町さんと羽塚村八左衛門、八兵衛の三人で捨子をしたことが分かった。この三人は牢舎となった。二十三日、塩町さんが捨子を白状した。

ところで、二十六日七時半時（午後五時頃）に大手町口御門外横町角にある孫三郎宅の裏から出

現在、近世部会では、令和九年に刊行する通史編の編集方針を検討中です。今回の市史編さん事業で収集してきた史料から、旧市史のときには明らかにならなかったことがらをあれこれと詮索中です。たとえば、こんなエピソードもそのひとつです。

寛延二（一七四九）年十月十九日、松平備前守領駿馬村の女が西尾城丁田門へやってきて、お堀に捨子があると聞いたので見てみたい、と門番に頼み込んだ。それより先、十月九日御長屋部屋脇の内堀に捨子（の遺骸）があるというので、片付けさせた。捨子はおそらくは郭内からの捨子だろうと推測されたから、町方（三輪藤太左衛門）へ吟味を命じた。駿馬村の女は小焼野村百姓伊右衛門の下女で、懷妊して暇を遣わされ、生まれた子は伊右衛門が預かり、のちに外へ預けたという。預けた先は、西尾城下塩町理平・さん夫婦であった。

池内 敏

こちら近世部会で。

捨子の罪

近世部会 編集委員



カモシカのヒヅメは、柔軟性があり、岩場を歩くのに適している。岩山で追っていたイヌが、突き飛ばされて落下して死亡したのを見たことがある。

愛知県での分布は、三河山間部に限られていた。次第に数が増し、一九八二年頃から忌避剤などを使い始め、一九八九年度から個体数調整を行うようになった。天然記念物の個体数調整の個体については、岐阜大の獣医学科が中心になり、哺乳類の専門家が集まり様々な資料を集めた。また、解剖により、年齢、妊娠の年齢、妊娠数や妊娠割合など多くのデータが集められた。県の統計によると、捕獲数は二〇〇二年（81頭）頃をピークに次第に減少し、二〇二〇年以降は21頭に減少している。これはカモシカの数が減ったと言うよりも、捕獲できる猟師さんの年齢が上がり、捕獲数が減少したと考えられる。従って、二〇〇〇年以降も数は増加し続けていたと思われる。

カモシカは各個体でテリトリーを持つために、

一歳を過ぎると親の縄張りから追い出されて、新しいところに出て行く。そのために県の調査でも、二〇二〇年頃には岡崎市まで分布が拡大している。今回、西尾市で見られた個体も、角などの長さからまだ若い個体と思われ、成熟して親のテリトリーから追い出されて、自分の新しいテリトリーを探しているところと思われる。テリトリーの面積は10～50haで、生息環境によって変化する。繁殖期は十～十一月で、妊娠期間は二一五日で、通常一子である。

愛知県の統計によると、一九八九～二〇二〇年までに捕獲された約一八〇〇頭の個体の年齢は、0.5歳が13.1%、1.5歳が9.3%、2.5～4.5歳が20.8%、5.5～9.5歳が23.3%、10.5歳以上が33.6%であった。このうち2.5歳以上の妊娠率は52.7%になっており、ほぼ隔年で出産していると推測される。

今後、西尾市においてもカモシカが住み着く可能性が高い。しかし、県の統計でも畑の作物の被害は少なく、大きな問題にはならないであろう。注意して見守る必要がある。

【参考文献】

- *阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田嘉四雄・三浦慎吾・米田政明（2005）『日本の哺乳類』東海大学出版会
- *「第2種特定鳥獣管理計画」（カモシカ管理）2022年 愛知県

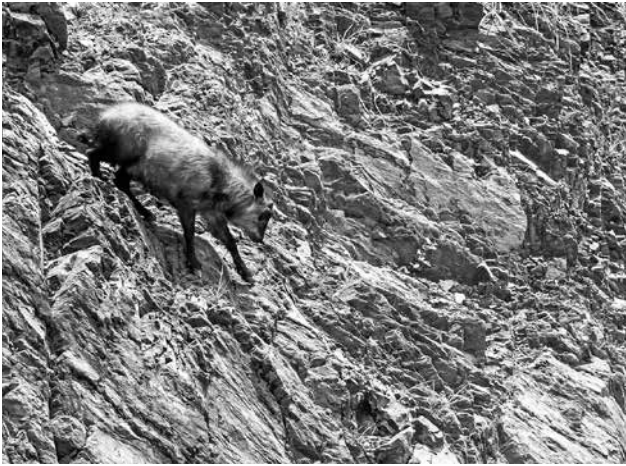
火し、本町の外山八右衛門宅の脇まで焼失した。西風が激しく吹いたために延焼し、横町、本町、塩町が残らず焼失した。ほかの史料では、焼失九十二軒（焼失竈数は、横町二十六、本町五十六、塩町三十八）ともいう。火は夜八時（午前二時ころ）によりやく収まったが、二十九日にも残り火がくすぶっていたといい、藩士たちが代わる代わる消火を行い、夜分は見回りをした。

十月晦日、塩町がまるごと焼けてしまったので、牢舎・町預となった者たちへ食べさせる物もなくなった。藤四郎ほか三人は居所も無くなってしまったので、会ヶ下町あたりで宿所・食物を代わる代わる与えた。それでも難儀な状況には変わらないので、藩は塩町に米一俵を牢舎の者たちを食べさせるのに援助した。

この火事があつたために塩町さん捨子一件の吟味は先送りされ、十一月二十四日、徒目付・同心が牢屋で塩町さんに吟味したところ、さんは以下のように述べた。さんが子を抱いていたところに見回りがやってきた。すると子が泣き始めたので、声を出させないように懷へ入れ、鼻と口を押さえたところ、死んでしまった。それで捨てることにした、と。

二十六日、藤太左衛門宅で、御用人衆、御徒目付が集まって塩町さん捨子一件の吟味を再開し、二十九日に吟味を終えた。十二月十五日、斬罪のところ出家衆から助命嘆願があつたので、縁心寺とさんの檀那寺正念寺と連名で願書を出すよう命じたが、十七日、願書は却下された。

十九日朝、塩町さんの斬罪が、諸役人立ち会いのもと浄念塚御仕置場で行われようとした。その場へ縁心寺・正念寺が袈裟がけでやってきて助命嘆



非常に身軽で急斜面の落石が多いところでも、普通に歩く。



このカモシカは、角が短いことから、まだ若い個体と思われる。1歳半ぐらいで親の縄張りから追い出されたものと思われる。

願をし、「髪を剃り領外追放、所払」を条件として助命された。

この一件は、村での子余りと町での子ども不足、そこに捨子の村と町における循環が生じることの具体例を示しています。それは同時に、元禄期に將軍徳川綱吉のもとで出されて死後撤回された生類憐令のうち、いわば中心的課題であつた捨子禁令は十八世紀半ばにも生きて継承されていたことを示しています。また、入牢者の賄いは入牢者の属する町村が担うこと、近在の僧侶によって助命嘆願がなされること、こうしたこともこの事例から見取れます。

【典拠】

- 「被仰渡申渡之控」從延享五辰年、至宝暦十三末年（『三浦氏時代の西尾藩』Ⅲ）、三浦家文書『日録』A52
- 寛延二年、『三浦家御用控日記』寛延二年、N364



『三浦家御用控日記』寛延2年10月19日

民	こ
俗	ち
部	ら
会	
で	
す	
。	

多様な民俗事象が確認できる西尾
その構成要素を探る

民俗部会 編集委員

野本 欽也

『新編西尾市史 別編4 民俗』は令和八年度に刊行予定です。現在、各委員は原稿執筆に集中しているところですが、これまで委員たちは西尾というフィールドに立ち、祭礼・行事をはじめくらしに関わることをすべてにわたって場面観察し、その意味・背景・変遷などを事細かに教えていただき、記録の共有を図ってきました。その中で調査を深めなければならぬ点について検討を加え、現在に至っています。この成果として西尾の海・川・山・里・マチ・島のくらしに関わる多くの資料を収集することができましたが、その中から二つ、西尾の風土形成の要素を紹介したいと思います。

一つ目としては、七点の日記との出会いをいただいたことです。明治から平成に至るくらしの様子が克明に記録され、中にはムラでの出来事やムラ役のこと、祭礼のこと、農作業のこと、ノリ養殖のことなど事細かに記録されているモノもあります。

これらの日記から、住む地域によってくらしを支える生業にも変化が見られる場合もあります。海付の集落である吉良町乙川に住むMさんの日記にはノリ養殖と養蚕、夜なべ仕事などの記録が克

市史編さんの現場から

片栗粉の意外な使用方法！

—料理以外にもこんな使い道が—

近世部会事務局

井口 喜景

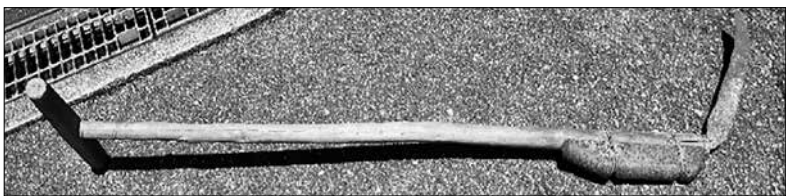
昨年四月より、西尾市史編さん室で学芸員として働いています、井口です。群馬県出身、二十六歳、フレッシュな新人です！

さて、配属先の市史編さん室での主な仕事は、『新編西尾市史 資料編4 近世2』の編さんです。私が最初に取り組んだことは、市内の金石文きんしもんの調査でした。金石文とは、金属や石に刻まれた文字資料のことを言います。石碑やお墓の銘文には、当時のできごとや亡くなった人の事績など、西尾の歴史を明らかにする上で大切な情報が刻まれています。

市史を編さんする上で、すでに大半は調査を終えていましたが、碑文が読めないものなどを含め、今年度に約十か所の金石文を調査しました。金石文の調査の経験は全くなく、調査方法も「拓本たっほん」しか思い浮かびませんでした。拓本とは、銘文に和紙を当てて、その上から墨を含ませた布などを打ちつけて文字を写しとる方法です。

しかし最近では、拓本よりも画期的な方法があります。それが、片栗粉を使用した調査方法です。名付けて、「片栗粉法」。最初に聞いたときは、「片栗粉!」「片栗粉って料理に使うのでは?」と驚きました。

明に記されており、一年の内で休むのは農休のみで、家族を守るために日々働いている場面が想像できました。富好新田に住むＴさんは塩業に関わる生業で、ハマトリ作業の姿を日記に克明に記録されていますが、なかでもクネ田作りの様子の記録は貴重です。湿田で裏作にムギ・ダイズ・ナタネなどを栽培するためには、クネ田を造らなければなりません。その土上げがしやすいように長い柄の先の鎌（クネ田切りという。W三三七mm、H一六三〇mm、D二〇〇mm、重量四・九kg、他にも大きさ、重さも異なる鎌も確認）で、田の土を縦に切っていきます。この鎌のおかげで、クネ田ビツ



クネ田切り鎌

次に印象に残っているのが年齢集団のつながりが強固に残されていることです。厄年会の神社への奉納（玉垣・灯籠・献馬等）などが随所に残され、そしてこの慣習は男女ともに見られることが西尾の風土形成要素の一つとも捉えることができます。

この中で特色ある祭礼を
むろちよう
紹介します。室町の天王祭

ここで、片栗粉法について説明します。刻まれている文字の凹面に手のひらを使つて粉をこすりつけ、埋め込みます。余分な粉を払い落とすと、白くきれいに文字が浮かび上がります。この片栗粉法を使用するにあたっては、名古屋大学名誉教授の塩村耕先生から、熱いご指導を賜りました。



片栗粉法の利点としては、拓本よりも簡単で、はつきりと文字を読み取ることができるという点が挙げられます。お墓や石碑は風化により、そのまま読むことが困難場合があります。そこで片栗粉を使用して、白く浮かび上がらせた文字をカメラで撮影することで、鮮明な画像を得ることができるのです。

なお、調査の際は事前に持ち主の許可をとり、調査後は水で洗い流し元の状態に戻します。

では、調査した金石文の中で、印象に残っているものを一つご紹介します。下矢田町の養寿寺にある「多^た米^め時元」のお墓です。

西尾藩主といわれると、皆さんは「大給松平家」を想起されると思いますが、それ以前には三浦家^{みうら}や土井家の時代もありました。彼らの家臣が西尾で没し、葬られています。

の中で、「鳥居ゆすり」という珍しい所作を伴う厄払いの行事が行われています。厄男がムラの中で重要な場面を担っている事例です。室町の天王祭は二〇時から神事が始まり、二〇時三〇分より、鳥居衆と称される「厄年」四人と天王組四人による鳥居ゆすりが行われます。その後、六〇個の赤提灯に火が灯され、山型に掲げられます。「天王広場」中央で厄年と天王組有志は前後四人ずつに分かれ鳥居に片足を乗せ、両手で鳥居をしつかりと持ち、鳥居を前後に大きくゆすります。提灯は激しく揺れ、ロウソクはあつという間に消えてしまいます。三度火が灯され、鳥居はより大きく前後に傾けられ、ゆすられます。二〇時三三分、提灯の火は消え、鳥居は元の状態に戻されます。

西尾では、その風土によって形成された魅力あふれる民俗文化財が、強い伝承力で現在まで受け継がれています。この伝承力の実際を『別編4 民俗』でお返し出来ればと思います。

の火は消え、鳥居は元の状態に戻されます。

西尾では、その風土によつて形成された魅力あふれる民俗文化財が、強い伝承力で現在まで受け継がれています。この伝承力の実際を『別編4 民俗』でお返し出来ればと思います。

コロナの影響で、こうした祭りを中止する方向に舵を切るしかない地区も見られます。西尾に根付いている知恵と工夫で食い止めることを願っています。



「鳥居ゆすり」神社



室町津島神社「鳥居ゆすり」

多米甚五右衛門時元は、西尾藩主土井家の初期の重臣です。墓石の四面にびっしりと墓誌のみが刻まれ、被葬者名がどこにも記されていないという珍しい形式の墓碑です。この墓誌の内容は、



最初に先祖が土井家に仕えるに至つた経緯が記されています。次に時元の兄、時定が人を斬つて出奔、それに途中まで同行した時元が追つ手に捕らえられるが、十七歳ながら剛胆にふるまい、そのことが契機となつて土井利勝に仕えるに至る顛末が活劇風に語られています。ところがその後、時元は重用されたものの、賢者を主君とすることができず、朋輩にも恵まれなかつたと書かれています。土井家時代の藩士個人の实像に触れている資料が、少ない西尾にとつて、新たな発見となりました。

市史編纂さんに携わることで、西尾の歴史を少しですが理解することができました。歴史を知る手がかりとして、文献資料が注目されがちですが、金石文のように石や金属に彫られた文字からも、地域の歴史を読み解くことができます。皆さんもぜひ、ご近所の石碑に注目してみてください。

西尾の金石文担当（自称）として、金石文や片栗粉法について何でもお尋ねください。

主な活動記録

(令和5年4月～令和6年2月現在)

編さん委員会 5年5月11日

編集委員会 5年6月8日・6年2月10日

近世部会

●『資料編4 近世2』の編集

●通史編の構想検討

●部会

5月28日・10月8日

●市内金石文追調査

中町縁心寺・下矢田町養寿寺・上永良町妙安寺・寺津町妙光寺・下羽角町浜島文貞墓・一色町崇用寺・同満国寺・同佐久島崇運寺・吉良町源徳寺・同宝光院・同華蔵寺・東幡豆町証文岩・鳥羽町極楽寺



金石文調査のようす

●寄託・寄贈・購入文書整理

碧南市儀員正夫氏所蔵文書・吉良町酒井家文書・花蔵寺町尾崎家文書・米津町米津達雄氏寄託資料・高河原町榊原家文書・『三浦家御用扣日記』ほか

近現代部会

●『資料編5 近現代』の執筆・編集

●通史編の構想検討・執筆

●部会

5月21日・8月30日・12月9日

●近代雑誌（『政友』『憲政』ほか）調査

のべ32回 名古屋大学附属図書館

●資料調査

国文学研究資料館・愛知県図書館・名古屋市鶴舞図書館・豊田市中央図書館・安城市図書館・安城市歴史博物館

●寄託・移管・購入資料整理

西尾幼稚園所蔵資料・岩瀬文庫旧書庫保管新聞・小栗新田関係資料ほか

自然部会

●『別編2 自然1』の執筆・編集

●市内の植物・海岸生物の追調査のべ46回

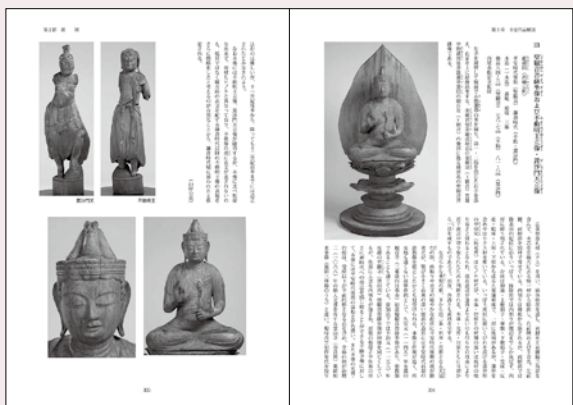
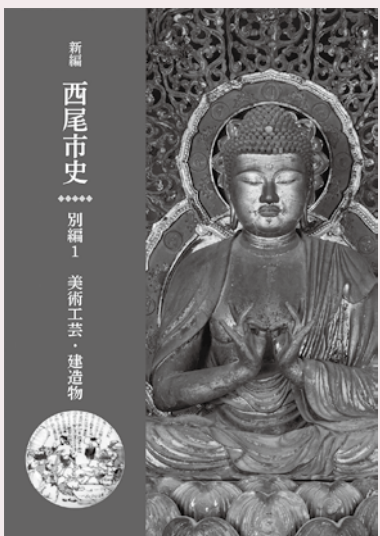
美術工芸・建造物部会

●『別編1 美術工芸・建造物』の編集・刊行

内容

◆第1章 総論

1 西尾市の仏教絵画／2 西尾市の世俗画／3 西尾市の彫刻／4 西尾市の工芸／5 西尾市の建造物



内容見本 (第3章 主要作品解説)

民俗部会

●『別編3 民俗』の構想決定・執筆

●部会

6月14日・9月13日・12月13日

●市内の祭礼・習俗・民具などの調査

吉良町瀬門神社馬駈神事の花笠作り

天王町神楽獅子・肴町大名行列

貝吹町鍵万灯

鳥羽の火祭り

西野町小学校御殿万歳クラブ ほか

4月～1月のべ101回



植物調査のようす

調査にご協力いただいた皆さま、情報をお寄せいただいた方々へ心より感謝を申し上げます。

◆第2章 特論

1 浄土真宗の文化財／2 西尾出身の画家 矢内稗秀／3 横井金谷―旅する画僧が残した足跡／4 殿さまの絵画 乗完から乗全へ／5 松平乗全と立山信仰／6 西尾の肖像彫刻と人物彫刻／7 西尾市内の仏像の自然科学的調査／8 西三河に残る「神明造（流造型）」の神社本殿

◆第3章 主要作品解説

西尾市内のおもな絵画・彫刻・工芸・建造物234点の解説とカラー写真など

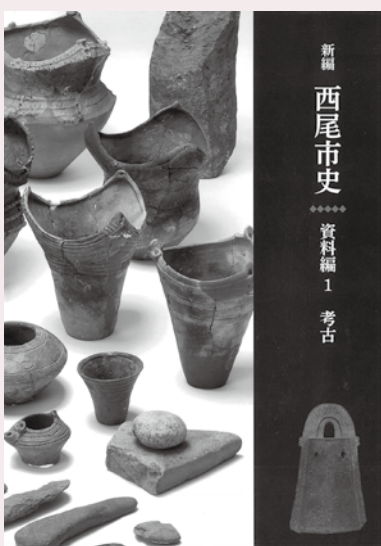
◆第4章 資料

1 落款・銘文集成／2 実相寺所蔵 釈迦如来および両脇侍像 像内納入文書一覧／3 西尾で活躍した絵師・画家たち ほか

既刊 『資料編1 考古』 残部僅少

A4判 790頁 オールカラー

西尾市の遺跡位置図付 5000円



新編 西尾市史 資料編1 考古

新刊 『別編1 美術工芸・建造物』

『新編西尾市史』の第5冊目として『別編1 美術工芸・建造物』を刊行しました。国宝・重要文化財を含む市内の重要な絵画・彫刻・工芸・建造物234点を詳細な解説と美しいカラー写真によって紹介しています。

A4判 オールカラー 643頁 5000円